

第二章 懺悔滅罪

仏祖憐みの余り、廣大の慈門を開き置けり、是れ一切衆生を証入せしめんが為めなり、人天誰か入らざらん、彼の三時の悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて軽受せしむ、又滅罪清浄ならしむるなり。然あれは誠心を専らにして前仏に懺悔すべし、恚麼するとき前仏懺悔の功德力を我を拯いて清浄ならしむ、此功德能く無礙の浄信精進を生長せしむるなり、浄信一現するとき、自佗同く転ぜらるるなり、其利益普ねく情非情に蒙ぶらしむ。其大旨は、願わくは我れ設い過去あくごうの悪業多く重なりて障道の因縁ありとも、仏道に因りて得道せりし諸仏諸祖我を愍みて業累を解脱せしめ、学道障り無からしめ、其功德法門普ねく無尽法界に充滿弥綸せらん、哀

みを我われに分布ぶんぷすべし、仏祖ぶつその往昔おうしやくは吾等われらなり、
吾等われらが当来とうらいは仏祖ぶつそならん。我が昔しやく所造しよぞう諸悪業しよあくごう、
皆由かいゆう無始むし貪瞋痴とんじんち、従身じゆしん口意くうい之所生しよしまう、一切いつさい我今がこん、
皆懺悔かいさんげ、是かくの如ごとく懺悔さんげすれば必ずかなら仏祖ぶつその冥助みまうじよ、
あるなり、心念しんねん身儀しんぎ発露ほつろ白びやく仏ぶつすべし、発露ほつろの
力罪根ちからざいこんをして銷殞しやういんせしむるなり。